

COVID-19、自然災害対策は「未来の子供達のため」が、第一義のはずです。
無責任な大人たちの責任を厳しく問いましょう！

思いつくまま、人気取りで補助金、助成金をバラ撒いていないか？
私達高齢者は戦後の辛い時期を、生き抜いてきました。近年の国民の潇洒な暮らし、自己に不利益は全て政府、他人の所為にする風潮を嘆いてきました。
冷暖房が当然の時代となり、楽に儲かる「オレオレ詐欺」や、肉体労働を嫌う、他人の禰で相撲を取るビジネスが流行っています。
「勤勉」の文字が霞んだ社会になり「要領よく生きる」時代になっています。
カボチャやさつま芋を食べて暮らしてきた時代が、懐かしく思い出されます。
怠惰と惰性に流されてきた、ここ 30~40 年の社会が望ましいかのように、政府の中枢に入り込み、露骨に私利私欲を求めて、活動した人物が竹中平蔵氏です。
経済界から正規職員を減らし、派遣社員社会を創り上げた。
派遣業から公共事業まで丸投げで請負い、それを傘下企業に丸投げして暴利を貪る。
この竹中流経済学には「日本国、未来の子供達」の事など微塵も感じられない。
今、国家存亡の時です。日本を復興させる為に、英知を集めて実施すべき時です。
「甘い利己本位主義」の日本を創り上げた主犯格が、維新の党の顧問格として再び、蠢いている。竹中平蔵氏に如何なる日本再建策が有るのか？
「どうすれば未来の子供達が安心できる社会を残せるのか？」
ご自分をアダムスミスと比べるほど、偉大な経済学者と自認しているのなら、国民に納得出来る説明をして貰いたい。
格差社会を創り上げ、派遣社員を苦しめ、悲哀のどん底に墮としているのは、全て似非経済学者、竹中平蔵ではないか？